

# ドストエフスキイ研究会

[主宰：芦川進一]

1

はじめに

2

研究会 30 年の活動 —五つの軸に沿って—

3

ドストエフスキイ研究会便り (3)～(7) 聖書論 // (8)～(13) スメルジャコフ論

4

ドストエフスキイ研究会便り (14) 新型コロナ・ウイルスとドストエフスキイ

5

ドストエフスキイ研究会便り (15)～(26) 講演記録

6

肖像画・肖像写真 (1)～(9)

7

予備校 graffiti [グラフィティー] (1)～(6)

## ① はじめに

---

### はじめに

1 河合文化教育研究所について

2 ドストエフスキイ研究会について

3 「ドストエフスキイ研究会便り」について

[TOP へ戻る](#)

## 研究会 30 年の活動

1. ドストエフスキイとキリスト教

2. ドストエフスキイと聖書 ー「テキスト」との取り組み ー

3. ドストエフスキイと聖書、そして「日本文化」

4. 『夏象冬記』との取り組み

5. 研究会から生まれた著作・論考

## 研究会便り

(3) イワンとアリョーシャの聖書 —モスクワ時代、イエス像構成の一断面—

(4) 道化フョードルの聖書

(5) 「一粒の麥」の死の譬え — ユダ的人間論とイワン —  
第1章 「一粒の麥」の死の譬え

(6) 「一粒の麥」の死の譬え — ユダ的人間論とイワン —  
第2章 新約聖書のユダたち

(7) 「一粒の麥」の死の譬え — ユダ的人間論とイワン —  
第3章 カラマーゾフのユダ・イワン

(8) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第1章 疾走するマリアとグレゴリーイ [第十一篇10より]

(9) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第2章 スメルジャコフ、猫の葬式 [第三篇2より]

(10) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第3章 イワンの「生涯で最も卑劣な行為」 [第五篇6より]

(11) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第4章 噛み砕かれたアリョーシャの指 [第四章3より]

(12) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第5章 ドミートリイの「裸形の曠野」 [第八篇2より]

(13) カラマーゾフの世界 — スメルジャコフを巡る人々 —  
第6章 スメルジャコフへの鎮魂歌 [第十一章10より]

## イワンとアリョーシャの聖書 —モスクワ時代、イエス像構成の一断面—

### 目次

《講演記録について》	3
はじめに (配布プリント)	4
[講演記録]	
<b>I</b> アリョーシャと聖書	
1. クリスマスへの問い	6
2. リーザが導くモスクワの前史	7
3. アリョーシャの出家に至る成長史 (1)	7
4. 「一粒の麥」の死	9
5. アリョーシャの出家に至る成長史 (2)	10
6. 聖書、イエスの言葉との出会い	11
7. イエスの言葉 (1)、出典の問題	11
8. イエスの言葉 (2)、再構成の問題	12
9. イエスの言葉 (3)、再構成の考察	13
10. アリョーシャが向き合ったイエス像	15
<b>II</b> 「神と不死」	
(1) 聖書世界とドストエフスキイ世界	
1. 自分自身にとっての「神と不死」の問題	16
2. 聖書世界とは、ドストエフスキイ世界とは何か?	17
3. 聖書学への目	18
4. 先学・先哲に学ぶ	19
(2) 新約聖書の基本的構図、その他	
1. 六本の柱	21
2. 母と聖書、「200」という数	23
<b>III</b> イワンと聖書	
1. イワンの悪魔	24
2. モスクワのイワン (1)、その思索の足跡	25
3. モスクワのイワン (2)、「肯定と否定」の分裂	26
4. イワンのルカ福音書	27
おわりに	30

## 道化フョードルの聖書

### 目次

---

1	ルカ福音書 (1) 「 <sup>しゅ</sup> 主よ、 <sup>いま</sup> 今こそ」……………	3～4
2	旧約詩篇 「 <sup>おろか</sup> 愚なるものは、 <sup>こころ</sup> 心のうちに、 <sup>かみ</sup> 神なしといへり」……………	4～7
3	ルカ福音書 (2) 「 <sup>さいはひ</sup> 幸福なるかな、 <sup>なんぢ やど</sup> 汝を宿せし胎」……………	8～10
4	ルカ福音書 (3) 「 <sup>とこしへ</sup> われ永遠の <sup>いのち</sup> 生命を <sup>つ</sup> 嗣ぐためには」……………	10～13
5	ヨハネ福音書 「 <sup>なんぢ</sup> 汝らは <sup>おの</sup> 己が <sup>ちちあくま</sup> 父悪魔より <sup>い</sup> 出でて」……………	13～15
6	ルカ福音書 (4) 「 <sup>おんな</sup> この女の <sup>おほ</sup> 多くの <sup>つみ</sup> 罪は <sup>ゆる</sup> 赦されたり」……………	15～20
7	「最後の一幕」 悪魔の系譜、フョードルからイワンとスメルジャコフへ……………	20～23
8	フョードルと「聖母マリア」との対決……………	23～27
	おわりに……………	27～29

## 第一章 「一粒の麥」の死の譬え

### 目次

---

#### 1 「一粒の麥」の死の譬え

1. ヨハネ福音書の文脈の中で ..... 5～6
2. ヨハネのメッセージ ..... 6～8
3. 愛、十字架、永遠の生命 ..... 8

#### 2 時間と関係の多層性

1. 過去・現在・未来、「時間の多層性」 ..... 8～9
2. 神・イエス・弟子・読者、「関係の多層性」 ..... 9～11
3. 第四の層、師と弟子たちとの「断裂」 ..... 11
4. 第2-3章への展望 ..... 11～12

## 第3章 カラマーゾフのユダ・イワン

### 目次

---

〔6〕 新約からカラマーゾフの世界へ .....	3～4
1. 聖俗二つの死 .....	4～5
2. イワン(一)。「ホザナ!」への希求、ロシアの小僧っ子・イワン .....	5～14
3. イワン(二)。「キリストの愛」の否定、ユダ・イワン .....	14～23
4. イワン(三)．ユダ・イワンの帰郷と挫折 .....	24～29
5. 「悪業への懲罰」 <sup>カラ</sup> .....	30～31
おわりに .....	31～32
《参考文献》 .....	33～34
《付記》 .....	34～35
《本論成立の経緯》 .....	35～37

## 第2章 新約聖書のユダたち

### 目次

---

<b>③</b>	福音書の <sup>ユダ</sup> 弟子たち	
1.	ヨハネ福音書のユダ	2～3
2.	マルコ福音書の <sup>ユダ</sup> 弟子たち	3～4
3.	マルコ福音書の「空白」	4～6
4.	マタイ福音書と使徒行伝のユダ	6～8
5.	<sup>ユダ</sup> 弟子たちのその後、師との再会の光と闇	8
6.	福音書、イエス復活顕現の光と闇	8～10
<b>④</b>	使徒行伝や書簡の <sup>ユダ</sup> 弟子たち	
1.	使徒行伝のペテロ、イエス復活顕現の光と闇	10～12
2.	「ケーリュグマ」が記す「我らの罪」	12～15
3.	闇と光、極性の弁証法	15～16
4.	「ヘブライ人への手紙」の罪意識	16～18
<b>⑤</b>	パウロの十字架	
1.	「天からの光」	19
2.	フィリピ人への手紙から	19～22
3.	ガラテア人への手紙から	22～26
4.	ローマ人への手紙から	26～29
5.	十字架に「つけられる」のか？「つける」のか？	29～31

## 第1章 疾走するマリアとグレゴリーイ [第十一篇10より]

### 目次

---

#### スメルジャコフの自殺

- |   |                          |       |
|---|--------------------------|-------|
| 1 | <small>おうせ</small> 逢瀬まで  | 4     |
| 2 | 逢瀬以降                     | 4～6   |
| 3 | 逢瀬の場で                    | 9～14  |
| 4 | スメルジャコフと聖書(1) —「初子」への祝福— | 14～18 |
| 5 | スメルジャコフと聖書(2) —イエスへの呪詛—  | 18～22 |

## 第2章 スメルジャコフ、猫の葬式 [第三篇 6より]

### 目次

---

1	二つのエピソード	—弱きものたちへの眼—	2～7
2	様々なエピソードの概観	—それらが指すベクトル—	7～12
3	「観照者」スメルジャコフ	—蓄えられた「印象」とその爆発の時—	12～15
4	スメルジャコフの棄教者論	—イワンを向こうに置いて—	15～20
5	イワンとの出会いと交流(1)	—人神思想の衝撃と受容—	21～26
6	イワンとの出会いと交流(2)	—若旦那と下男の「落差」—	26～31

## 第3章 イワンの「生涯で最も卑劣な行為」 [第五篇6より]

### 目次

---

1	イワンの「願望」	3～7
2	モスクワのイワン	7～17
3	帰郷、「父親殺し」、そして逃走	17～26
4	「悪業への懲罰」、三度の対決	26～39
5	新たな悪魔的悲劇、「兄弟殺し」	39～40
6	アリヨーシャの祈り	40～42

## 第4章 噛み砕かれたアリョーシャの指 [第四章3より]

### 目次

---

- |   |              |                    |       |
|---|--------------|--------------------|-------|
| 1 | アリョーシャを狙って   | —「これで十分だね？」—       | 2～4   |
| 2 | イワンからアリョーシャへ | —「罪なくして涙する幼な子」への眼— | 4～12  |
| 3 | 「垢すりへちま事件」   | —父と子の受難—           | 12～19 |
| 4 | 「平等」であること    | —アリョーシャとリーザが担う使命—  | 20～24 |
| 5 | 「ジューチカ事件」    | —イリュージョンとスメルジャコフ—  | 24～36 |
| 6 | アリョーシャの告別説教  | —死からの復活の条件—        | 36～43 |

## 第5章 ドミートリイの「裸形の曠野」 [第八篇2より]

### 目次

---

1 「裸の畑」との出会い	—「絶望」と「死の気配」—…………… 2～7
2 三千ルーブリ金策の旅	—「獵犬」を探して—…………… 7～9
3 父親殺し	—カラマーゾフ的「パノラマ」の展開—…………… 9～15
4 モークロエ村で	—「餓鬼」、「罪なき幼な子」との出会い— …… 15～23
5 カラマーゾフ世界の宗教的覚醒体験	—イエス像に向かって—…………… 23～29
6 ドミートリイの新たな曠野	—遠きに輝く「太陽」—…………… 29～37

## 第6章 スメルジャコフへの鎮魂歌 [第十一章 10 より]

### 目次

---

- ① スメルジャコフの遺書 —孤絶の中で向き合ったもの— …… 3～7
- ② 「絶滅させる」を巡って(1) —「怒りと裁きの神」の前で— …… 7～13
- ③ 「絶滅させる」を巡って(2) —主人公たちのドラマの中で— …… 13～22
- ④ スメルジャコフが向き合った「懼るべき」「活ける神」  
—怒りと裁きの神、愛と赦しの神— …… 22～37
- ⑤ アリョーシャの「ゾシマ伝」 —兄スメルジャコフへの鎮魂歌— …… 37～55

## 新型コロナ・ウイルスとドストエフスキイ

—確かな「言葉」を求めて—

### 目次

---

1	はじめに .....	1
2	ラスコーリニコフが見た「疫病」の夢 .....	2
3	樫本大進氏の「コロナ・メッセージ」 .....	3
4	コロナ禍と「裁き」 .....	5
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り (15)」について .....	8

## 講演記録

(15) ドストエフスキイと福沢諭吉、二つの旅

(16) カラマーゾフの兄弟、そしてスメルジャコフ

(17) 「様々な問いとの出会い」(1)

(18) 「様々な問いとの出会い」(2)

(19) 「ドストエフスキイと親鸞」(1) ドストエフスキイ、イエス像構成の足跡

(20) 「ドストエフスキイと親鸞」(2) ドストエフスキイ、イエス像構成の足跡

(21) イワンとアリョーシャの聖書 —モスクワ時代、イエス像構成の一断面—

(22) ボードレールとドストエフスキイ —ニーチェのデカダンス概念から—

(23) 虚無としての腐臭

(24) 『罪と罰』、隠された女神たち —ラスコーリニコフの下宿空間をめぐる—

(25) 《創作》 異聞・『罪と罰』 —召使ナスターシャの回想—

(26) 『カラマーゾフの兄弟』の「光」について(その1)

—ゾシマ長老とアリョーシャ師弟が表現するもの—

## ドストエフスキイと福沢諭吉、二つの旅

### 目次

---

#### 《前半部》

- 1 はじめに ..... 2
- 2 福沢の旅、その目的・期間・旅程 ..... 3
- 3 『夏象冬記』までのドストエフスキイ ..... 6
- 4 西航までの福沢諭吉 ..... 11
  - ※旅の「資料」について ..... 12

#### 《後半部》

- 5 福沢の「西洋事情探索」 ..... 13
- 6 ドストエフスキイが見たパリ ..... 18
- 7 ドストエフスキイが見たロンドン ..... 22
- 8 おわりに ..... 25
  - ※キー・ワード・50 ..... 28
  - ※次回「ドストエフスキイ研究会便り (16)」について ..... 30

## カラマーゾフの兄弟、そしてスメルジャコフ

### 目次

1	はじめに —問題提起に代えて—	3
2	『カラマーゾフの兄弟』の中心テーマ・問題軸	4
	—スメルジャコフ像構成の前提として—	
	第一のテーマ —「神と不死」を求める「ロシアの小僧っ子」—	5
	第二のテーマ —「罪なくして涙する幼な子」の重層性—	5
	第三のテーマ —四つの死—	6
	第四のテーマ —「否定か肯定か?」「闇か光か?」の対立軸—	7
	第五のテーマ —主人公アリョーシャー—	8
	※第五のテーマは、原稿化にあたって付加しました	
3	スメルジャコフ像構成の「基礎資料」(→21ページ《付》)	10
4	スメルジャコフ像の考察	11
	(1) —その名前—	11
	(2) —筆者と二人の「父」によるスメルジャコフ像—	13
	(3) —少年・青年時代の様々なエピソード—	15
	(4) —クラムスコイの絵画「観照者」と重ねて—	18
	★	
	(5) —マリアとの交流、(イエスへの呪詛)—	00
	(6) —イワンとの交流、(出会いと対決、「悪業への <sup>カラ</sup> 懲罰」)—	00
	(7) —ドミートリイと検事と弁護士のスメルジャコフ像、(裁判の場で)—	00
	(8) —アリョーシャ、(祈りと鎮魂歌、「ゾシマ伝」)—	00
	※(3)は当日(1)(2)(4)の中で論じたのですが、原稿化にあたって新たな項目として独立させました。新たに書き加えた部分もあります。	
	(5)以下は当日扱いませんでした(→ ⑤「おわりに」、《付》残されたテーマ)	
5	おわりに	19
	《付》	
	残されたテーマ	20
	スメルジャコフに関する私の考察	21
	スメルジャコフに関する「基礎資料」	21
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り(17)」について	23

## 「様々な問いとの出会い」(1)

### 目次

---

<b>参考資料(1)</b>	公開講演会・パンフレット	3
<b>参考資料(2)</b>	—話者からのメッセージ—	4
《前半部》		
	「はじめに」	5
<b>1</b>	「この炎を超えるものはあるのか？」 —祖父を燃やす炎—	5
<b>2</b>	「東京には何があるのか？」 —「田舎」と「都会」、そして「田舎者」—	9
<b>3</b>	「猿を聞く人、捨子に秋の風いかに？」 —芭蕉の一句との出会い—	14
<b>4</b>	「この混沌とは何なのか？」 —高度経済成長期の日本、「大学闘争(紛争)」の中で—	18
<b>5</b>	「神はあるのか？ 不死は存在するのか？」 —「ロシアの小僧っ子」と「聖書」との出会い—	22
《付》		
	小出次雄略歴	30
	参考文献	31
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り(18)」について	32

## 「様々な問いとの出会い」(2)

### 目次

---

#### 《後半部》

<b>6</b>	「今ここの、絶対のリアリティを掴めているか?」……………3 — 恩師との散歩、突きつけられた問い—
<b>7</b>	「何が現実を変え得るのか?」……………19 — 「社会」を向こうに置いて—
<b>8</b>	「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」……………27 (「わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし?」) — 十字架上のイエスの絶叫—
	おわりに……………50
	参考文献……………50
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り(19)」について……………52

## 「ドストエフスキイと親鸞」(1)

ドストエフスキイ、イエス像構成の足跡 —ユダ的人間論とキリスト論—

### 目次

<b>1</b>	はじめに	4
<b>2</b>	聖書世界とドストエフスキイ世界	5
	1. 「ロシアの小僧っ子」	6
	2. 「聖書世界」と「ドストエフスキイ世界」	6
	3. 「ユダ的人間論」と「キリスト論」	7
	4. キリスト教、聖書との取り組みについて	8
<b>3</b>	ドストエフスキイ、イエス像探求の足跡(1)	9
	—『罪と罰』を構成する七つの要素—	
	1. 「痩せ馬殺し」の夢	9
	2. 「ナポレオン理論」	10
	3. 血の一線の「踏み越え」	10
	4. 「行き場がない」ということ	11
	5. 「復活」ということ	11
	6. リザヴェータ、「神の救済の経綸」	12
	7. ソーニャの「イエス像」	13
<b>4</b>	ドストエフスキイ、イエス像探求の足跡(2)	14
	—『カラマーゾフの兄弟』、イワンの場合—	
	1. 『カラマーゾフの兄弟』の基本構図	14
	2. 「ロシアの小僧っ子」イワンが凝視するもの	14
	3. 「大審問官」の劇詩	15
	4. 「地質学的変動」の人神思想	16
	5. イワンとゾシマ長老との対決	16
	6. スメルジャコフと父親殺し	17
	7. 「悪業への懲罰(カラ)」	17
	8. 「死の床」のイワン、そして復活の光	17
	9. イワンとは	18
<b>5</b>	討論のために	
	イワンと阿閻世、裁き	19
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り(20)」について	20

## 「ドストエフスキイと親鸞」(2)

ドストエフスキイ、イエス像構成の足跡 —ユダ的人間論とキリスト論—

### 目次

---

1 「質疑応答」	3
----------	---

### 《付記》

四年後、「質疑応答」を読み返して	18
※次回「ドストエフスキイ研究会便り(21)」について	25

## イワンとアリョーシャの聖書

—モスクワ時代、イエス像構成の一断面—

### 目次

<b>I</b>	<b>アリョーシャと聖書</b>	
1.	クリスマスへの問い	3
2.	リーザが導くモスクワの前史	4
3.	アリョーシャの出家に至る成長史 (A~F)	5
4.	聖書、イエスの言葉との出会い	11
5.	イエスの言葉 (1)、出典の問題	13
6.	イエスの言葉 (2)、再構成の問題	14
7.	イエスの言葉 (3)、再構成の考察	17
8.	アリョーシャが向き合ったイエス像	22
<b>II</b>	<b>「神と不死」</b>	
(1)	<b>聖書世界とドストエフスキイ世界</b>	
1.	自分自身にとっての「神と不死」の問題	23
2.	聖書世界とは、ドストエフスキイ世界とは何か?	24
3.	聖書学への目	26
4.	先学・先哲に学ぶ	27
(2)	<b>新約聖書の基本的構図、その他</b>	
1.	六本の柱	31
2.	母と聖書、「200」という数	36
<b>III</b>	<b>イワンと聖書</b>	38
1.	イワンの悪魔	39
2.	モスクワのイワン (1)、その思索の足跡	41
3.	モスクワのイワン (2)、「肯定と否定」の分裂	43
4.	イワンのルカ福音書	45
	おわりに	48
	「付説」:「放浪のラディカリズムと成長史」	50
	参考文献 (新約聖書学関係)	69
	当日配布のプリント	71
	※次回ドストエフスキイ研究会便り (22) (未定)	

## ボードレールとドストエフスキイ —ニーチェのデカダンス概念から—

### 目次

---

1	ニーチェとの出会い	3
2	ニーチェのデカダンス概念	5
3	ニーチェとイエス	7
4	ドストエフスキイとパリ	9
5	「死せるキリスト」	11
6	ボードレールとパリ	16
7	ボードレールと両極性	17
8	ダンディズム	19
	おわりに	21
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り (23)」について	23

## 虚無としての腐臭

### 目次

---

1	はじめに .....	3
	— 死、虚無との出会い —	
2	『カラマーゾフの兄弟』 .....	3
	— ゴシマ長老の腐臭とアリョーシャー —	
3	『罪と罰』 .....	4
	— マルメラードフの腐臭とソーニャ —	
4	『白痴』における「死せるキリスト」 .....	8
	— 自然律の支配と復活、近代との対決 —	
5	『夏象冬記』の旅 .....	9
	— 墓場としての西欧、「ラザロの復活」の登場 —	
6	死と腐臭 .....	11
	— 「ラザロの復活」が示すもの —	
	関係する論考 .....	13
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り (24)」について .....	15

## 『罪と罰』、隠された女神たち —ラスコーリニコフの下宿空間をめぐって—

### 目次

---

はじめに	3
1 テキスト①・創作ノート①	3
2 テキスト②・創作ノート②	4
3 テキスト③・創作ノート③	6
4 テキスト④・創作ノート④	7
5 テキスト⑤・創作ノート⑤	9
《考察》	10～13
※次回「ドストエフスキイ研究会便り(25)」について	14
《参考資料》「善きサマリア人の譬」— ルカ福音書から —	15

《創作》異聞・『罪と罰』 — 召使ナスターシャの回想 —

目次

---

<b>A</b>	はじめに .....	3
<b>B</b>	上京と下宿 .....	3
<b>C</b>	婚約 .....	4
<b>D</b>	一本の「棘」、修道院 .....	6
<b>E</b>	「おとぎの国」 .....	6
<b>F</b>	狂い始めた歯車 .....	8
<b>G</b>	悪魔風 .....	8
<b>H</b>	吉報 .....	9
<b>I</b>	隠されていたこと .....	10
<b>J</b>	「棘」、貧しき人々 .....	11
<b>K</b>	「善きサマリア人」 .....	14
<b>L</b>	闇に光る「灯」 .....	14
<b>M</b>	再生、もう一つの「灯」 .....	15
	『罪と罰論』 に至る様々なデッサン .....	17
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り (26)」について .....	18

## 『カラマーゾフの兄弟』の「光」について (その1)

— ゾシマ長老とアリョーシャ師弟が表現するもの —

### 目次

---

1	ゾシマ長老に関する基礎データ — 今までの私の論考 —	3
2	ある家族の歴史	
	(A) モスクワのアリョーシャ — 様々な性格規定、それらが向かうベクトル —	5
	(B) アリョーシャの帰郷 (1) — アリョーシャの幼年時代と母 —	7
	(C) アリョーシャの帰郷 (2) — 修道院、夕日の斜光、「一切かニルーブリカ」 —	9
3	故郷・「家畜追込町」で (1) — 父フョードルと「ロシア的信仰」 —	10
4	故郷・「家畜追込町」で (2) — ゾシマ長老との出会い —	12
	アリョーシャの炎 (1)	13
	アリョーシャの炎 (2)	15
5	『ヨブ記』に書かれていたこと — 少年ゾシマの教会体験 —	17
6	アリョーシャ、そしてスメルジャコフ — 「光」と「闇」、極性の分裂への視野 —	20
	※次回「ドストエフスキイ研究会便り (27)」について	23

## 肖像画・肖像写真

1 肖像画 [B.Γ.ペローフ画 1872年]

2 青春の肖像画 [K.A.トルトーフスキイ画 1847年]

3 死の家から出てきた男 [小出次雄画]

4 「混沌(カオス)に向かって」 [A.O.バウマン撮影 1862-63年]

5 「1872年、二つのドストエフスキイ像 — ラウフェールトの肖像写真とペローフの肖像画 —」  
[B.Я.ラウフェールト撮影 1872年]

6 ドストエフスキイの「微笑」 [H.ース撮影 1876年]

7 死を超えた「永遠の生命」 [H.ロレンコーヴィチ撮影 1878年]

8 『カラマーゾフの兄弟』執筆中のドストエフスキイ(1)  
[K.A.シャピロ撮影 1879年]

9 『カラマーゾフの兄弟』執筆中のドストエフスキイ(2)  
[M.M.パノーフ撮影 1880年6月9日]

## 予備校 graffiti

予備校 graffiti ① —私が出会った青春— (一)

予備校 graffiti ② —私が出会った青春— (二)

予備校 graffiti ③ —私が出会った青春— (三)

予備校 graffiti ④ —私が出会った青春— (四)

予備校 graffiti ⑤ —私が出会った青春— (五)

予備校 graffiti ⑥ —私が出会った青春— (六)

## —私が出会った青春（一）—

### 目次

---

予備校 graffiti ①	Kさんの「行き場」	2
予備校 graffiti ②	自転車で乗り越えた挫折と、運命の「招待状」	4
予備校 graffiti ③	「ひまわり畑」と「エベレスト」と「トランペット」	6
予備校 graffiti ④	暗記・暗唱の努力が開いたもの	8
予備校 graffiti ⑤	スッチー・Tさんのドラマ	10

## —私が出会った青春(二)—

### 目次

---

予備校 graffiti ⑥	Mさんの二つの口癖	2
予備校 graffiti ⑦	じゃあ、オレ、家を出るよ	5
予備校 graffiti ⑧	様々な「病」、そしてS君のゲップ	
	・CさんとNさんの「心の病」	7
	・もう一つの「病」—「ゲップ・S君」の心の奥にあったもの—	9
予備校 graffiti ⑨	Y君の海外修行と一年越しの暗記・暗唱	12
予備校 graffiti ⑩	心優しき東大生	14
予備校 graffiti	・⑥～⑩・余録	16
予備校 graffiti	・もう一つの「青春」②	18

## —私が出会った青春(三)—

### 目次

---

予備校 graffiti ⑪	O君、裁判員制度と「静かな革命」	
	PART I .....	2
	PART II .....	3
予備校 graffiti ⑫	S君を凍りつかせた「市民の冷たい眼」.....	7
予備校 graffiti ⑬	音楽を愛する若者たち、そしてドストエフスキ	10
	(A) 音大生Kさんとバッハと聖書 .....	11
	(B) ドストエフスキとベートーヴェンから響いてきた声 .....	12
	(C) 調律師P君が聴き取った世界の「不協和音」.....	13
予備校 graffiti ⑭	お母さんの「永遠の生命」を求める青年.....	16
予備校 graffiti ⑮	「てっちゃん」の冒険.....	18
予備校 graffiti ⑯	セブン・イレブンで見る「夢」.....	20
予備校 graffiti	・⑪～⑯・余録.....	21
予備校 graffiti	・もう一つの「青春」③.....	23

## — 私が出会った青春 (四) —

### 目次

---

予備校 graffiti ⑰	テレビで出会ったベトナムの悲劇	2
予備校 graffiti ⑱	「死」と向き合い、「詩」と向き合う、医師S君	5
予備校 graffiti ⑲	医学生がぶつかる様々な「壁」	
	(A) 誤魔化しを超えて	7
	(B) 国境を越えて	8
	(C) 友人二人の死を超えて	9
	(D) 受験を超えて —星野富弘さんとの出会い—	13
予備校 graffiti ⑳	<sup>ひとみ</sup> 日土水君の「靴屋」の哲学	15
予備校 graffiti ㉑	「刀剣修業」の道に入ったM君	18
予備校 graffiti	・⑰～㉑・余録	20
予備校 graffiti	・もう一つの「青春」④	22

## — 私が出会った青春 (五) —

### 目次

---

予備校 graffiti ②②	K君の三つの「旅」	2
	《PART・I》お祖母さんに導かれての、故郷土佐への旅	3
	—「駐在保健婦制」を追って—	
	《PART・2》宮本常一に導かれての、日本人への旅	4
	—「忘れられた日本人」を追って—	
	《PART・3》大江満雄に導かれての、ハンセン病への旅	6
	—「ハンセン病」患者との出会い—	
予備校 graffiti ②③	D君の戦利品、その苦い味	12
予備校 graffiti ②④	辛い思い出 —「落とし穴」に嵌 <sup>は</sup> まった若者たち—	14
	(A)「パチンコ3兄弟」	14
	(B)「だって、私、彼氏が出来たんですよ!」	16
	(C)「困るんです。こういうの、本当に困るんです!」	17
	(D)「お陰様で、30歳で1千万です!」	19
	(E)「僕、一応、ドストは制覇しました」	22
予備校 graffiti ②⑤	クリスマス、I君が「暗唱」したもの	25
予備校 graffiti ②⑥	Hさん、無限の情熱と生命力の向かうところ	27
予備校 graffiti	・②②～②⑥・余録	31
予備校 graffiti	・もう一つの「青春」⑤	33

## —私が出会った青春(六)—

### 目次

---

予備校 graffiti ②7	U君、民族の悲劇を背負って	2
予備校 graffiti ②8	Y君、日本の近代を辿って	5
予備校 graffiti ②9	忘れ難い若者たち② —痛快な、そして楽しい思い出—	7
	(A) 「特急あずさ君」の「基礎貫徹」 <sup>キ・ン・カ・ン</sup>	7
	(B) ドストエフスキイ読破と「OK」サイン	9
	(C) 「合格判定E」を貫いた浪人生	10
	(D) 「千葉太陽少年団」と「ピーナッツの情熱」	11
	(E) 「curious・boy・好奇心少年」、ベストの問い <sup>キュアリアス ボーイ</sup>	13
	(F) 「案山子 <sup>かかし</sup> 少年」	15
予備校 graffiti ③0	Eさんの「笑顔」と、「汚れちまった悲しみ」	17
予備校 graffiti・②7～③0	余録	21
おわりにかえて		
私の浪人時代	—朝顔の10秒の凝視—	22
予備校 graffiti・もう一つの「青春」	⑥	26